ベンフォード分析

対象フィールドの桁の値ごとに数をカウントし実数と予測数を計算します。

◇機能

《ベンフォード分析》はフィールドに表示される最初の桁、または、指定の桁の組み合わせの数をカウントし、実数とベンフォードの法則によって計算された予測数を比較します。

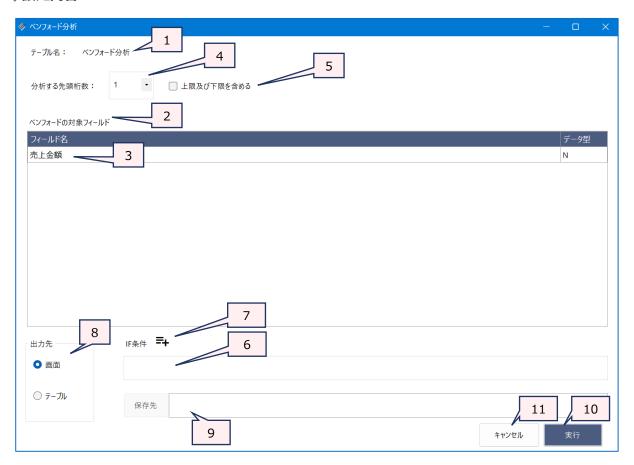
	売上金額		先頭桁	実数	予測数	Z_統計量	下限	上限
1	2,000		1	110	98	1.449	81	114
2	3,000		2	54	57	0.372	44	70
3	4,000		3	74	40	5.548	29	52
4	5,000		4	52	31	3.775	21	42
•••		'	•••					

ベンフォードの法則によって計算された予測数を計算します。

◇メニュー

《分析》-《ベンフォード分析》

◇設定内容



- 1. テーブル名 : 操作の対象となっているテーブルが表示されます。
- 2. ベンフォードの対象フィールド(必須)

: ベンフォード分析の対象フィールドを選択します。

- 数値型フィールドのみ表示されます。
- 指定できるフィールドは1つになります。
- 3. 《フィールド選択》ボタン

:「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。

4. 分析する先頭桁数(必須)

: 分析する桁数のパターンを指定します。

5. 上限および下限を含める(任意)

: 選択した場合、ベンフォード分析で許容できる数値の上限と下限を出力します。

- 6. IF条件(任意): 抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。
- 7. 《式ビルダー》アイコン

:「IF条件」の条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。

8. 出力先(必須):実行結果の出力先を選択します。デフォルトは、「画面」が選択されています。

▶ 画面:実行結果を画面に表示します。

▶ テーブル:実行結果を新規テーブルに出力します。

9. 保存先(出力先が「テーブル」の場合は必須)

: 実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。

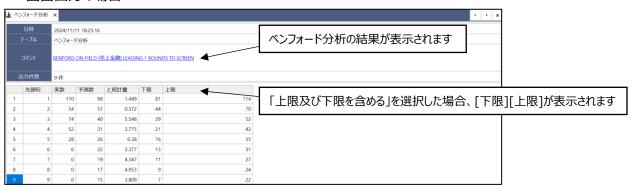
- テーブル名の長さは、64文字までです。
- 「出力先」で「画面」を選択した場合は、入力できません。
- ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04 table フォルダです。
- 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、 プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみ です。

10. 《実行》ボタン: 実行します。

11. 《キャンセル》ボタン: 実行せず画面を閉じます。

◇実行結果の表示

● 画面出力の場合



● テーブル出力の場合



◇操作ログ

BENFORD ON FIELD [ベンフォードの対象フィールド] LEADING n BOUNDS IF 条件式 TO 出力先

- ※「上限及び下限を含める」を選択した場合は、「BOUNDS」が記述されます。
- ※「IF条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。
- ※出力先は、「出力先」の選択により、記述が変わります。

出力先	ログ			
「画面」を選択した場合	SCREEN			
「テーブル」を選択した場合	"(サブフォルダ名)¥新規テーブル名"			